

大江文庫からごきげんよう



江戸錦 吹上のお花見 大江文庫所蔵 より

東京家政学院大学図書館報 第67号 目次

巻頭言 本で生活に潤いを	1
・本の周辺	2
・図書館あれこれ第8回電子書籍閲覧方法 /	3
本学教員寄贈著書紹介	
・書店ツアー選書おすすめ図書	4

巻頭言

本で生活に潤いを

現代生活学部長 三宅 紀子

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。大学生活をきっと楽しみにしていることと思います。

さて、皆さんはこれまで図書館を利用してきましたか？皆さんの先輩たちに聞くと、卒業研究を始めるまでほとんど図書館に行くことがなかったと答える方が残念ながら多いようです。卒業研究を始める前にも、授業での学びをさらに深めたり、信頼性の高い情報を得てレポートを書くために、図書館を積極的に活用するようにしましょう。本以外にも、電子図書や種々のデータベースなども利用できます。

でも、本を読むことは、勉強のためだけではありません。この原稿依頼を受けて、私自身の本との関わりを思い出してみました。子どものころ、母に読み聞かせをしてもらったものも含めて、いろいろな絵本や本を読んできましたが、その中で特に気に入っていたのが「北極のムーシカミーシカ」（いぬいとみこ著）です。ホッキョクグマを主人公に、北極に生きる動物たちの友情と厳しさを描いた児童文学です。挿絵の白くまがかわいかったことがお気に入りの一番の理由でしたが、この本には子どものころには気づかなかった深い意味もあったようです。

大人になって読んだ本の中で、繰り返し読んだものには、「日の名残り」（カズオ・イシグロ著）があります。この作品は映画をきっかけに読んだものですが、20世紀前半のイギリスを舞台に、貴族の屋敷で働いていた執事の目で、大英

帝国の黄昏を描いています。

この主人公の誇りをもって誠実に仕事に取り組む姿が心に残っています。「わたしを離さないで」も独特の世界でしたが、興味深く引き込まれて

いきました。また、「鷲と雪」を初めて読んで、北村薫の作品の世界に惹かれ、「街の灯」「玻璃の天」とともに、昭和初期の上流社会を舞台にした、良家の令嬢と女性運動家「ベッキーさん」が活躍するシリーズを読むようになりました。そして、大学で日本文学を学ぶヒロインと落語家円紫による文学推理の謎解きである「六の宮の姫君」「夜の蝉」などの「円紫さんシリーズ」なども楽しく読みました。どこがよかったのかを言葉で説明するのは難しいのですが、なんとなく自分の感性と合う、心が温まる、元気が出るというのが好きな本の理由かもしれません。

家政学では、私たちの生活を心豊かなものにしていくことも目指します。コロナ禍で、コンサートや演劇などの上演が困難になっています。文学や美術、音楽、演劇などの文化は、私たちの心に潤いを与えてくれる私たちの生活に欠かせない重要なものです。皆さんの大学生活の中でもぜひ様々な文化にも触れて、自分の世界を広げてほしいと願っています。



須賀敦子著『コルシア書店の仲間たち』

を読んで

井上 眞弓

読書行為には、わたくしたちをここではないどこかへ連れて行ってくれる、もしくはどこかへ行きたいと誘ってくれる要素があるのではないか。この本はイタリアのミラノにあった書店が舞台であり、そこを中心に活動した若人たちが描かれている。つまり小説ではなく、作者が実際にその地において見聞したことが選り分けられて描かれたエッセイである。ミラノとはどんなところなのか、ここに描かれた人々に会ってみたいと思わせる、旅情誘う小品である。

著者の須賀敦子は、若くしてフランス、続いてイタリアへ留学した。帰国後またイタリアに赴いて人生の伴侶と巡り会い、数年をイタリアで過ごした後、再度帰国した人物である。詩編は彼女が亡くなった後に発掘されて日の目をみたが、完成された形での小説は見えない。しかし、全集が刊行されるという、稀有な文学者である。全集に編まれた作品の多くはこうしたエッセイであり、その他は翻訳・書評が占めている。この『コルシア書店の仲間たち』は再び日本に帰ってきてから、つまり彼女の晩年と呼ばれる時期に若き日を思い起こして書かれたエッセイである。

今回とくに注目したいのは、『コルシア書店の仲間たち』に見える平明にしてゆたかで、かつ滋味を帯びた日本のことばについてである。須賀敦子は、幼少時より父親譲りの本好きであり、まるで本を

『コルシア書店の仲間たち』須賀敦子著
文藝春秋社1992.



呑むように読んでいたらしい。それを彼女は自分のエッセイ『遠い朝の本たち』のなかで、読書に夢中になって「本に読まれている」といって祖母・母に叱られていたと言う。こうした読書遍歴がこのエッセイにも表れているのであろう。よどみなく流れる文体にはほんのりと哀しみの色が隠されている。コルシア書店は大教会の脇にあって、出版を手がけつつ書籍販売を行う書肆(しょし)である。生活に問題を抱える住民の暮らしに目を向け、貧困・労働・教育関連のボランティアも行ってた。この点からも、今日的な社会課題への示唆を導き出せる本ではないかと思う。そして、誰かと何かを共有して、ことを成し遂げるといふ理想に燃える若人それぞれが持つ孤独にも、作者のまなざしが注がれている。文章に醸し出される滋味は、若人の孤独や喪失を恐れる心をも掬い取っているところからにじみ出てきたのだろうか。淡々とした筆運びに若い人の心を鼓舞する押しつけがましさはなく、何故か清廉な一条の光を浴びた気にさせてくれる。

そして読者は、このエッセイから日本のことばが持つ奥行きのある処を知り、それを堪能することとなるであろう。

(現代生活学部現代家政学科 教授)

本の周辺

ウイルスの意味論：生命の定義を超えた存在

松田 正己

山内一也 [著] みすず書房 2018.

新型コロナのパンデミックという非常事態の中で、普段は読まないような本を手取る機会もあるかもしれない。そんな折に、感染症の原因となるウイルスとは何かについて学んでおくのも良いだろう。そこで皆さんの参考に本書を紹介したい。

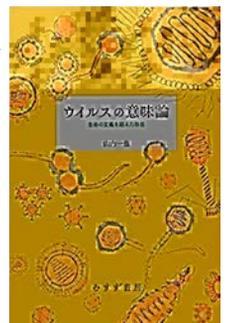
著者の山内一也氏は、東大の医科学研究所の教授をされていた方で、私は20年ほど前の狂牛病騒動の時に、テレビで拝見したことがある。ウイルスや人畜共通感染症等について造詣の深い方であると記憶している。日本獣医学会には、著者の講演などがまとめて紹介されているので、ご覧になると良い。

https://www.jsvetsci.jp/05_byouki/ProfYamauchi.html

ウイルスは、数十億年にわたり生物と共に進化してきた「生命体」で、数万年もの凍結状態に置かれても、復活するという。ウイルスは生と死の間にある存在とされる。ウイルスが世界的流行を引き起こすのは、乱開発による環境破壊の結果でもある。更に驚くのは、私たちのDNAには、ウイルスの遺伝情報が大量に組み込まれており、一部は生命活動にかかわっているということだ。ウイルスのことを知れば知るほど、生物と無生物の境界が曖昧になるから不思議だ。

[目次]

- 第1章 その奇妙な“生”と“死”
- 第2章 見えないウイルスの痕跡を追う
- 第3章 ウイルスはどこから来たか
- 第4章 ゆらぐ生命の定義
- 第5章 体を捨て、情報として生きる
- 第6章 破壊者は守護者でもある
- 第7章 常識をくつがえしたウイルスたち
- 第8章 水中に広がるウイルスワールド
- 第9章 人間社会から追い出されるウイルスたち
- 第10章 ヒトの体内に潜むウイルスたち
- 第11章 激動の環境を生きるウイルス



似たような題名の本で、「免疫の意味論」(多田富雄著 青土社 1993.4)もお薦めしたい。この他に参考となるのは、以下の本である。ウイルスの発見などに関するより詳細なエピソードがふんだんに盛り込まれており興味深い。

「破壊する創造者：ウイルスがヒトを進化させた」フランク・ライアン 著；夏目大訳：早川書房 2014.12 509p

原書名: Virolution: the most important evolutionary book since Dawkins' selfish gene(2011年1月単行本を文庫化)

(人間栄養学部人間栄養学科 教授)

図書館あれこれ 第8回 電子書籍閲覧方法について

令和2年度から電子書籍を導入いたしました。下記要領でお気軽にご利用ください。

電子図書 KinoDen を導入しました！

図書館ホームページから電子図書が使えるようになりました！サインインすると、学外から読むこともできます

図書館ホームページのトップ画面

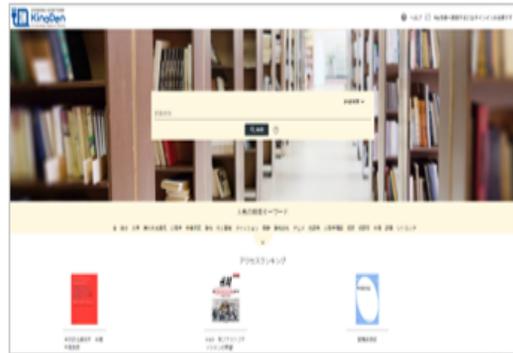
「情報検索・電子図書」内の「電子図書」をクリック！



さらに

学外からの利用の場合はサインインを行います

Gmailのアドレス(~@kasei-gakuin.ac.jp)を使用してサインイン
図書館よりお送りしたメールに記載されている シリアルコード を
『シリアルコード認証を入力してください』と表示されたら、
入力してください



図書館ホームページ トップ画面

KinoDen トップ画面

KinoDen トップページの検索ボタン **Q検索** のみをクリックするとさらに本が表示されます

読み終わったらXをクリックして閉じるだけ！貸出・返却の必要はありません😊

ご不明な点は図書館までお問い合わせください

東京家政学院大学附属図書館

本学教員寄贈著書紹介

令和2年度に寄贈を受けた本学教員の著作等を紹介します。

ご寄贈いただきました皆さま、ありがとうございました。今後とも著作物出版の折にご寄贈いただければ幸いです。

岩見哲夫 南極のさかな大図鑑
福音館書店 2020

畝部典子 中世英語英文学研究の多様性とその展望
春風社 2020

上村協子 生活者がつなぐ食(消費)と農(生産)
現代生活学研究会 2020

原 光彦 スミばあばの言葉
ブイツーソリューション 2020

持続可能な社会をつくる生活経営学
朝倉書店 2020 ほか

世界子供白書2019
日本ユニセフ協会 2019

野村浩子 女性リーダーが生まれるとき
光文社 2020 ほか

順不同 敬称略

書店ツアー一選書おすすめ図書

例年開催している書店ツアーからおすすめする、生活と人生と勉強に役立つ、図書館所蔵の楽しい本の数々です。
他キャンパスの図書は取り寄せて読んでみよう！



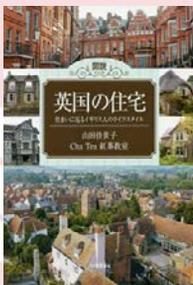
屋上のテロリスト/知念実希人著 光文社
請求記号 チ 13
日本のifストーリーで、もしかしたらこうなっていたかもしれないと思うとちょっと怖いけど最後まで目が離せない展開でした。とても面白かったです。



Veritecoの草木染め 春・夏・秋・冬 手づくりのある暮らし/Veriteco著 グラフィック社 請求記号 753.8/へ 14
草木染めはキッチンにある道具で十分やさしい色合いで季節を感じさせてくれます。

図説英国の住宅：住まいに見るイギリス人のライフスタイル /山田佳世子著 河出書房新社
請求記号 523.33/ヤ 47

写真も多く掲載されており、英国の住宅についてわかりやすくまとめられています。日本と比較した英国のライフスタイルについても書かれており、非常に興味深い一冊となっています。



桜のような僕の恋人/宇山佳佑著

福音館書店 請求記号 ウ 75
美咲が病気のことを知ってから恋人の晴人に対して気丈に振舞っている姿を見てとても泣けてしまった。時間がないからこそ今までの様に話をしているそんな姿を見ていると辛く後半はずっと泣きっぱなしでした。悲しいけど悲しいだけじゃなくて、誰かを想う気持ちで素敵なものなんだなと思いました。



ココヨの就活ハンドブック. 2021年度版 /就職活動研究会 協同出版
請求記号 366.29/シ 73/2021
就職を考えている人や就職活動前の学年の方にも、企業研究をするうえでためになることが載っています。ココヨは文房具を扱っている印象が強いと思いますが、インテリア関連の事業も行っています。



ハローキティの英語で紹介する日本 /桑原功次著 ナツメ社
請求記号 837.8/ク 85
この本は、子どもたちと楽しく遊ぶためのアイデアが満載。保育園などで活用され、子どもと一緒に作ったり、手作りされたもので遊んだり様々な利用法があります。

服地の基本がわかる テキスタイル事典/関間正雄監修 ナツメ社 請求記号 586.17/フ 31
服を作るときのテキスタイルってどんなものがいかが悩んでる人にぴったり



DIYでつくるパリのインテリアフレンチ、ナチュラル、ヴィンテージ...おしゃれに暮らすアイデア/角野恵子・森聖加著 ディスクユニオン 請求記号 592.7/ス 64
海外風の部屋にしたい方にぜひ読んでもらいたいです！しかも簡単にDIYできるので初心者の方も安心です！



幻色のぞき窓/山本タカト著 芸術新聞社 請求記号 914.6/ヤ 55
平成の浮世絵師と呼ばれる著者のエッセイ。しかし、エッセイだけではなく彼の描いた妖しく、耽美な絵も掲載され素晴らしい一冊です。また、彼の住んでいる鎌倉が沢山書かれ、観光ガイドとは違う、やや影のある鎌倉を感じる事ができるでしょう。



ケーキの切れない非行少年たち /宮口幸治著 新潮社
請求記号 368.7/ミ 56
犯罪に関わってしまった非行少年たちの実態について、実際にその少年たちと関わってきた方が書いた本です。実体験を踏まえて書かれているため、わかりやすい一冊となっています。

医者が考えた猫背がなおる30秒ストレッチ /小林弘幸(小児外科学)著 PHP研究所 請求記号 781.4/コ 51
猫背が直るといいことがあります。治すストレッチがイラスト付きで書かれています！



大江文庫からごきげんよう
東京家政学院大学 図書館報 第67号
ISSN 2189-2881
令和3年4月1日 発行
発行者 東京家政学院大学附属図書館
〒194-0292 東京都町田市相原町2600
電話 042-782-9815